

事後評価報告書(日本ーフィンランド研究交流)

1. 研究課題名:「ニューロフルイディックデバイス:構成的神経ネットワーク培養計測システムの構築」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:国立大学法人東京医科歯科大学生体材料工学研究所 教授
安田 賢二

2-2. 相手側研究代表者:アールト大学材料科学・工学部門 教授 Sami Franssila

3. 総合評価: (C)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

本プロジェクトの目標は、生体組織や臓器の機能を再現する最小構成の細胞ネットワークモデルの構築を可能とする細胞培養計測プラットフォームの開発、そして薬剤に対する神経応答の計測を実現することである。今回の報告書からは、その実現にはまだ至っていないようであり、目標達成に至るまでの今後の研究の進め方や方向性が読み取れなかった。今後は最終目標を強く見据えた実験計画が望まれる。

研究計画立案時において、相手側に関する情報が不足していたようであり、また相互のコミュニケーションも十分にはできていなかったのではないかとと思われる。大震災で大きな影響を受けたことは認めるが、基本計画の見直しや修正に関して、より強力なリーダーシップが発揮されていれば挽回できたのではないかと感じる。

(2)交流成果の評価について

共同研究体制の構築が期間内に実現せず、準備不足、マネジメント不足であった感はあるが、プロジェクト終了後ではあるが少しずつ震災による遅れを取り戻すための活動が展開できている点は評価できる。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

今後に向けて研究計画をどのように立て直していくのかが問われている状況であると思われるが、最終報告書を見る限り、今後の道筋は見えていないのではないかと感じる。本プロジェクトの初めから終わりまでを再度丁寧にかつ多面的に振り返って今後の研究活動に生かしてほしいと願う次第である。